

自己評価報告書

平成23年 5月 2日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520683

研究課題名 (和文) 都市成熟時代における住宅地の環境変化—持続的発展に向けた地理学からの施策提言

研究課題名 (英文) Environmental transformation of residential quarter in the urban maturity age: Some measure proposal from geography for sustainable development

研究代表者

香川 貴志 (KAGAWA TAKASHI)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70214252

研究分野：人文地理学・都市地理学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：都市再開発、住宅老朽化、人口高齢化、店舗併用住宅、持続的発展

1. 研究計画の概要

経済発展や社会の状況に応じて都市は変化するが、とりわけ住宅を取り巻く環境は、居住者の加齢や転出入によって大きな影響を受ける。本研究では、社会経済的な情勢変化が旧来の住宅地に及ぼした影響の実態把握、そこから生じた諸問題の解明、将来に向けた問題解決のための糸口の模索、これらを主な目的として研究を進めている。

研究対象地域は、研究代表者が研究を蓄積してきた地域で、なおかつ住宅をめぐる現況把握や将来展望が急務である地区を、日本、カナダ、中国から選んだ。住宅をめぐる制度やシステムの違いから単純な相互比較は難しい部分もあるが、住宅老朽化や少子高齢社会の進展など、国家間に共通する基礎環境も多いため、国内地域の相互比較では得られない示唆を海外の事例から学ぶことが可能である。とくに都市に持続的発展を求める社会的要請は全世界的課題でもあり、高齢者が快適に暮らせる住宅地が、若年層や乳幼児にとっても安心して暮らせる住宅地である必要性が高まっている。よりよい住宅と暮らしを求める研究は、成熟社会にとって不可欠かつ喫緊の課題であるといえる。

上記の目的を達成するため、本研究では日本から大阪府の千里ニュータウン、カナダからブリティッシュコロンビア州のバンクーバー、中国から上海を取り上げた。いずれの都市においても、数十年前に整備された住宅が近年において大胆に再生を始める過程にある地区に着目して研究を進めている。

2. 研究の進捗状況

本研究は左段の1に記したように、3つの大きな目的を持っている。すなわちそれは、(1) 社会経済的な情勢変化が旧来の住宅地に及ぼした影響の実態把握、(2) 上の(1)から生じた諸問題の解明、(3) 将来に向けた問題解決のための糸口の模索、これらの3点である。

対象地域に定めた3地区（千里ニュータウン全域および南千里駅周辺地区、バンクーバー市全域およびウエストブロードウェイ、上海市全域および芦湾区田子坊）それぞれにおいて、上記(1)～(3)がおおむね把握でき、既に後述する雑誌論文3件、学会発表5件、図書3件（うち端緒の単行本1件）、さらに市民向け公開講座での招待講演（[その他]欄の1件）で成果を社会へ還元してきた。

学会発表のうち2011年3月28日のものは発表内容を慷慨集に掲載しており、日本語の本文に加えて中国語と英語の要旨も付加した。また、雑誌論文のうち「都市地理学」第6号のものは、カナダ連邦政府の公用語である英仏両語の要旨を付加して、研究成果の海外への発信も視野に入れている。

図書のうちの単著『バンクーバーはなぜ世界一住みやすい都市なのか』は、専門知識を盛り込みながらも一般読者を意識した啓蒙書であるが、初版第一刷1500部が完売し、初版第二刷500部も半数程度を販売した。2010年冬季オリンピックがあったとはいえ、「地理学からの施策提言」を社会にアピールする目標は、当初の計画を上回る水準で達成できたと考えている。

3. 現在までの達成度

達成度②「おおむね順調に進展している」

(理由)当初計画していたタイのバンコクが政情不安により調査できなくなったことを除くと、日本(千里ニュータウン)、カナダ(バンクーバー)、中国(上海)の全てにおいて研究は順調に進んでおり、学会発表と論文公表がほぼ予定通りに運んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

本研究によって、経済発展状況などの社会環境変化が都市、ことに居住拠点となる住宅に及ぼす影響の大きさが明らかになってきた。とりわけ建設から30年以上を経た地区では、当初の入居者が高齢人口に差し掛かり、人口高齢化が住宅地に対して再生を促す原動力になっている。同時に高齢者が安心して老いてゆける生活環境の創出が急務であり、本研究をまとめる作業と並行して、研究成果の社会への還元を一層充実させるため、本研究に続く緻密な研究が求められる。今後は主軸を日本国内のニュータウンにシフトさせ、海外の事例と比較しながら、早急に解決すべき高齢者ケアや継続居住について研究を深め、社会への情報発信を強化してゆきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

香川貴志「バンクーバー～その素顔と魅力(特集:バンクーバー、冬季オリンピックの舞台)」、地理54巻11号、pp.8-21、2009、査読無し。

香川貴志「バンクーバー市ウェストブロードウェイにおける住居機能の拡充と在来型商業地の変化」、都市地理学、6号、印刷中、2011、査読付き。

香川貴志「少子高齢化社会における親子近接別居への展望—千里ニュータウン南千里駅周辺を事例として—」、人文地理63巻3号、印刷中、2011、査読付き。

[学会発表] (計5件)

香川貴志「バンクーバー市ウェストブロードウェイにおける住居機能の拡充と商業機能の変化」、日本地理学会2009年秋季学術大会、2009年10月25日。

香川貴志「少子高齢化時代における親子近接別居—千里ニュータウンの公営住宅と分譲マンションを題材として—」、人文地理学会2009年大会、2009年11月8日。

香川貴志「日本人地理学研究者がみた上海市芦湾区田子坊の長短所と将来展望」、中日刊行と地理学研究センター設立記念シンポジウム(邦訳)、2011年3月28日。

香川貴志「上海市芦湾区田子坊における商業化とその課題—伝統的住宅と商業の混在に着目して—」、日本地理学会2011年春季学術大会、2011年3月29日。

香川貴志「再生段階の千里ニュータウンにおける分譲マンション供給とその特徴」、経済地理学会関西支部2011年4月例会、2011年4月23日。

[図書] (計3件)

香川貴志『バンクーバーはなぜ世界一住みやすい都市なのか』、ナカニシヤ出版、2010、196p.、単著。

香川貴志「分譲マンション供給からみた三大都市圏の構造変容」、(富田・藤井編『図説 大都市圏』所収)、pp.20-23、2010。

香川貴志「世界屈指の暮らしやすさの秘密—バンクーバーの住宅地とその景観—」、(阿部和俊編『都市の景観地理—イギリス・北アメリカ・オーストラリア編—』所収)、pp.33-41、2010。

[その他] (計1件) 招待講演

香川貴志「バンクーバーとその周辺におけるスカイとレインの事業展開とその特徴」、人文地理学会第8回公開セミナー、2008年10月25日。